



恩二小だより

<http://hachioji-school.ed.jp/ogt2e/>

令和7年(2025年)

10月31日

八王子市立恩方第二小学校

042-651-3700

第8号

読書週間にちなんで ～進んで本を読む子どもにするために～

校長 有賀 康 美

朝夕の冷え込みが日に日に増し、日暮れの時刻も早くなり、気が付くと暗くなっています。暑かった夏からあっという間に秋も深まり、もう11月です。月日の経つのは早いものと実感しています。

今学校では、目前に迫った音楽会のための仕上げの練習をしています。日常の音楽の授業を通して身に付けた「歌うこと」や「楽器の演奏技術」を披露します。歌ったり演奏したりすることに楽しさを感じ、仲間と音程やリズムを合わせることを通して、「上手にできた」「きれいな音を出せた」「タイミングを合わせられた」など、「音楽っていいな、楽しいな」という心情や感性を育てたいと思っています。緊張感のある発表の舞台上、きれいに響く声で音程を合わせて歌ったり、リズムを合わせようと楽器を演奏したりする努力と頑張りをぜひご鑑賞いただき、演奏後には大きな拍手を送っていただければ幸いです。

さて、毎年11月3日の文化の日を中心として2週間、読書を推奨する行事が多数行われる「読書週間」になっています。学校でも10月27日から11月8日までを読書週間としています。子どもたちにたくさん本を読んでほしいと、図書室に先生たちが一人1冊選んだ「おすすめの本」を紹介するコーナーも設け、読書を勧めています。家庭でも子どもがたくさん本を読んでくれるといいのですが、なかなかそうはいかないと思います。では読書をする子どもにするにはどうすればいいのでしょうか。家庭でこんなことをすると子どもが本を読むようになるという話が、2つあるので紹介します。

『親に読書の習慣があると、子どもも自然と本を読むようになる。親が読書をする家庭では、家の蔵書が多く、子どもに本を買い与えることが多くなる。こうした環境では本を読むのが自然になり、子どもの読書も習慣化しやすくなる。また、寝前のほんの数分でも本を読み聞かせてやると子どもが本好きになる。ある程度の読書習慣は低学年のうちにつけておきたい。家族で一つの本を読み、感想を言い合うのもよい。』

『親がうまく時間のゆとりが出るように工夫して、リビングなど子どもの前で読書する時間を作り出す。大人が楽しそうに読書をする、いわば実演してみせるのが一番。まずやって見せる、楽しそうに実演すると子どもは真似をする。子どもは大人の説教を聞きたがらない一方で、大人のやることは真似したくなる特性があるから、すぐに効果を求めず、大人が読書をゆっくり楽しむ。辛抱強く子どもを見守っていれば、やがて子どもも自分から読書をするときがやってくるはず。推薦図書は、栄養はあるが子どもの嫌いな食べ物と同じ。とにかく「活字」への抵抗をなくすことを優先する。字幕のアニメ映画、図鑑や文字の多いマンガでもよい。そうやって活字に接する機会が増えていくと映画の原作本や好きなアーティストのエッセイ本などにも興味が広がっていく。「どんな話なの？」と子どもに質問することで、要約力を鍛えることもできる。子どもの嗜好を変えるのは時間がかかる。あせらず辛抱強く働きかけて。』

子どもを読書好きにするのはとても難しいと思いますが、読書を強制せず上手に導くよう、秋の夜長、テレビを消し、スマートフォンやタブレットの動画視聴を止めゲーム機を手放し、親子で読書をしてみたいraidかがでしょうか。

[illegible][illegible]